

2010年10月19日

(これは、ロンドンにて2010年10月13日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードは、10月13日付で、2010年度第3四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループは、本年度上半期の最高益更新などの大変堅調な業績達成により、第3四半期においても好調な業績を維持しています。

第3四半期の業績は、法人・個人顧客向け事業活動の活発化等、本年度上半期と同様の傾向を見せ、大変堅調な伸びを示しています。同四半期における営業収益についても、ランレートで上半期を上回り、競合他行との厳しい競争下においても拡大傾向にあります。また、十分なコスト管理態勢のもと、融資減損額も引き続き改善傾向にあります。

当行グループ最高経営責任者であるピーター・サンズは、当期業績について、次のように述べています。「スタンダードチャータードは、9月末時点においても営業収益・税引き前利益共に最高益を記録し、引き続き高い業績を収めることができました。事業拠点を置く各地域国市場の経済活動はさらに拡大しており、事業取引も経済危機以前のレベルに戻りつつあることを受けて、当行は、同市場での顧客ニーズに応える金融サービスを、他行に先駆けて提供する優位なポジションを維持しています。」

#### ホールセールバンキング部門

同部門では、第3四半期においても広範にわたり堅調な収益計上となりました。これまで同様、顧客からの収益が同部門総収益の8割以上を占めており、収益成長を牽引する主な原動力となっていますが、その伸び率(2010年度1月～9月)は、前年同期比で二桁台後半を示しています。

トランザクションバンキング事業では、上半期のランレートを上回る堅調な収益を計上し、トレード・キャッシュ・マネジメント両事業の平均取引量も引き続き増加傾向にあります。第3四半期における両事業の利益率は、引き続き安定した推移となりました。

ファイナンシャルマーケット事業の取引高は、利幅収縮という厳しい市況下においても、前年同様、堅調に推移しています。同事業における顧客からの収益は、前年同期比で二桁成長を達成致しました。また、コーポレートファイナンス事業についても、新規の大型案件受注により、好調な業績を維持しています。

自己取引による収益伸び率は上半期のランレートを上回っており、プリンシパルファイナンス事業においても、複数の優良事業案件売却による投資回収が功を収め、薄商いの金融市場において好調な業績達成となりましたが、ALM事業における当四半期見越し額の微減により、その収益は一部相殺されています。

ホールセールバンキング部門における第3四半期の費用支出率は、厳格なコスト管理を徹底する一方で、投資プログラムの実施続行により上半期を上回ることとなりました。

投資ポートフォリオのクレジットクオリティは引き続き良好なものとなっています。景気を判断する「早期警告」指標は本年度を通して改善傾向にあり、地域国または業種による差異は特に認識されておりません。また、不良債権残高も、予想通り低目に抑えられています。

同四半期のリスク加重資産(RWA)の増加率は、全体的に予想通りに推移しています。

#### コンシューマーバンキング部門

同部門における第3四半期の収益は、上半期のランレートを上回り、引き続き堅調に推移しています。本年

度累計では上半期とほぼ同等の成長率となっています。

第三四半期における住宅ローン事業の収益については、引き続き利幅の下げ圧力により好調な増加幅が相殺され、上半期分をやや下回るかたちとなりました。一方で、融資利鞘は大幅に安定し、概ね上半期レベルを維持しています。

また、同四半期におけるウェルスマネジメント事業の手数料収入、および、中小企業向け(SME)融資事業、クレジットカード事業、個人向け融資事業の収益は、すべて上半期を上回り、回復基調にあります。

コンシューマーバンキング部門では、引き続き厳格なコスト管理を実施するとともに、特に、マーケティングや顧客リレーションシップマネジャー(RM)の新規採用などの選択的投資により、収益成長を下支えています。

また、各事業部のクレジットクオリティは良好で、第三四半期の融資減損分も改善しつつあることから、前四半期のランレートを下回るかたちとなっています。

### グループ関連

スタンダードチャータードは、慎重なバランスシート管理態勢のもと、投資先である地域国市場、資産、業種別に十二分に分散化を図り、引き続き高い流動性と潤沢な資本を保持しています。

グループの流動性ポジションは高水準にあり、当四半期を通して顧客預金残高(特に当座・普通預金)が順調な増加を見せたほか、ホールセールバンキング事業においてもキャッシュマンドートの大型案件獲得に成功いたしました。また、コアTIER1、TIER1、総資本率については、現行のバーゼルII体制下のもと高水準を維持し、前期と同比率を保っています。

また今後数年間で満期予定の貸出案件へのリファイナンスは極めて限定されたものとなっています。

本年度業績予測については、12月初旬の発表を予定しています。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7245  
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia +852 28203958  
Jonathan Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

[Ca.Japan@sc.com](mailto:Ca.Japan@sc.com)

---

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できるとされる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。